

大会名：平成17年度全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選
 名寄地区予選会 兼 名寄地区バスケットボール協会理事長杯
 平成17年9月4日 12時30分 会場：名寄市スポーツセンター
 高校男子 決勝 戦評

名寄光凌	82	7		17	56	下川商業
		17		14		
		24		11		
		34		14		

決勝戦は、準決勝で士別高校に大勝した名寄光凌と、おといねっぴ美術工芸高校に粘られながらも、第4ピリオドに突き放して勝ち上がってきた下川商業との対戦となった。スタートメンバーは名寄光凌 山科 北平 内村 富樫 稲船、下川商業 加藤 張間 佐藤 田畑 菊田である。

《第1ピリオド》

名寄光凌はスリークォーターからのマンツーマンディフェンス、下川商業は2-1-2のゾーンディフェンスでスタートした。立ち上がり、両チームともターンオーバー、シュートミスを連続させ、7分過ぎまで4-2と思うように加点することが出来ない。下川商業は 張間 菊田を中心に確実にディフェンスリバウンドを取りオフェンスにつなげていった。名寄光凌も外角からのシュートで応戦するも17-7下川商業リードで第1ピリオドを終了する。

《第2ピリオド》

名寄光凌は 山科のジャンプシュートなどで巻き開始をはかるものの、下川商業は高さでインサイドを支配しリードを保ち続ける。しかし、徐々にガード陣のターンオーバーが目立ち始めてきた下川商業に対し、名寄光凌は確実に差を詰める。下川商業も意地を見せ、張間のバスケットカウントなどで流れを引き戻す。名寄光凌が差を詰めたものの31-24と下川商業リードのまま第2ピリオドを終了する。

《第3ピリオド》

名寄光凌は 山田のゴール下のシュートを皮切りに、連続6得点をあげ一気に流れをつかむ。31-30となったところで下川商業たまたすタイムアウト。しかし、勢いに乗る名寄光凌は 北平のボールカットからのレイアップシュートで34-33と逆転に成功する。更に名寄光凌は 神野 山田と立て続けにゴールを奪う。下川商業も 張間 菊田のシュートで食下がり、両チームとも一步も譲らざる展開となった。

《第4ピリオド》

名寄光凌はディフェンスをオールコートに変え、一気に勝負にでる。疲れの見える下川商業はターンオーバーを繰り返す。タイムアウトを取り、建て直しをはかるが、名寄光凌 山科の外からのシュートが決まり18点差をつけ大勢をきめる。下川商業も粘りを見せるが82-56で名寄光凌が優勝し全道大会への出場権を手にした。

戦評 柴田 題 寛